

(表1)

(連結)

## 平成22年3月期 第2四半期決算の概況と通期見込み

(対象：東証一部上場26社～12月決算1社、2月決算1社を含む)

## (1) 平成22年3月期 第2四半期決算の概況

(億円未満切捨て)

	平成21年3月期 第2四半期決算		平成22年3月期 第2四半期決算		増減	
	金額	売上比	金額	売上比	額	率
売上高	37,008	100.0	37,474	100.0	+466	+1.3
売上原価	11,152	30.1	11,489	30.7	+337	+3.0
粗利益	25,856	69.9	25,985	69.3	+129	+0.5
販売管理費	20,151	54.5	18,639	49.7	△1,512	△7.5
営業利益	5,704	15.4	7,346	19.6	+1,641	+28.8
営業外損益	益380		益190		△189	
経常利益	6,085	16.4	7,536	20.1	+1,451	+23.9
特別損益	益501		損54		△556	
法人税等	3,001		2,614		△387	
当期(上期)純利益	3,585	9.7	4,868	13.0	+1,282	+35.8
研究開発費	7,832	21.2	6,176	16.5	△1,656	△21.1

当期は、国内売上は増加したものの、海外売上が円高の影響を受け減少に転じたことにより、売上高は微増となった。利益面では、前年の特殊要因等による研究開発費の減少により、営業利益と経常利益がいずれも大幅に増加した結果、当期(中間)純利益は増益となった。

- 売上高については、
  - 26社全体で、前年同期比1.3%の増収となった(増収19社、減収7社)。
  - 国内は、非医薬品事業の売上減少、子会社の連結除外があったものの、薬価改定がなかった影響もあり主力製品が伸長し、前年同期比653億円(2.8%)増の2兆4,056億円であった。
  - 海外は、海外企業の買収・子会社化に伴う売上増が寄与したものの、円高によるマイナス影響が大きく、前年同期比186億円(1.4%)減の1兆3,418億円と減少に転じ、海外売上高比率は前年同期比0.9ポイント減の35.8%に低下した。なお円高の影響を除くと、主力品の多くは売上増となっている。
- 粗利益は、海外企業の買収及び導入品の売上伸長等により、原価率が30.7%と0.6ポイント上昇した結果、前年同期比0.5%の微増に留まった。
- 販管費は、前年同期に海外企業の買収・子会社化に伴うインプロセスR&D費が計上された影響で研究開発費が大きく減少し、前年同期に比べ7.5%減少した。なお、インプロセスR&D費の影響を除くと、研究開発費は前年同期比で微増となった。
- この結果、営業利益は前年同期比28.8%、経常利益は23.9%増益となった(増益、減益ともに13社)。
- 純利益については、前年同期の事業譲渡益の影響で特別利益が減少したものの、法人税等の減少もあり、前年同期比35.8%の増益となった(増益14社、減益12社)。

## (2) 平成22年3月期 通期見込み(比較ベース)

(億円未満切捨て)

	平成21年3月期 (実績)A	平成22年3月期 (修正予想)B	増減(B-A)		参 考		
			額	率	(当初予想)C	対当初予想(B-C)	
売上高	72,427	74,895	+2,467	+3.4	74,818	+77	+0.1
経常利益	12,219	12,837	+617	+5.1	12,848	△11	△0.1
当期純利益	4,791	8,156	+3,364	+70.2	8,170	△14	△0.2

(注1) 協和発酵キリンは決算期変更のため、4月-12月の実績値および予想数値を用いている。